

噴火湾

先月30日、道大谷室蘭高女子サッカー部が全日本高校選手権に出場した。結果は初戦で京都精華学園高に0-2で負けたが、試合を見守っていた地元関係者が「最後まで本気で戦う大谷室蘭に感動した」と話すなど、多くの人の心を動かした。

昨年4月に就任した石井一矢監督の下、練習の8割以上を求

本気は心を動かす

ールをしっかりと止めて、蹴る、といった基礎練習に充ててきた。なかなか結果が出ず、中原碧泉^{あおい}主将は「最初は不安だった」と言うが、9月の道予選で同部は8年ぶりの頂点に立ち、「本気で向き合ってくれる監督の思いに応えることができた」と話してくれた。

取材する中で、選手同士が支え合う姿に私も心を打たれた。部を引っ張ってきた中原主将は、けがで道予選に出場できなかった。そんな中、「全国に行

ったら一緒にまたプレーできる」と、励ましてくれたチームメイトが、約束通り全国出場を決めた。

リハビリを重ねて11月に復帰し、全国出場を果たした中原主将は試合後、「けがの悔しさを原動力にした。全国の舞台で周困への感謝を示した」と話した。選手が練習や試合に本気で打ち込む姿は、結果よりも特別なものを、チームメイトや保護者に残したと感じた。

(村上真緒)